

第 27 期

(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)

事 業 報 告 書

公益財団法人 双日国際交流財団

第 27 期（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月） 事業報告書

公益法人へ移行後 3 期目の第 27 期、平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）は、前年度に続き、基調事業としての学術研究助成、奨学金助成、国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第 10 号」を発行し、母体会社の双日株式会社を始め関係先への配布を行い、また外部に対する情報公開として財団ホームページの管理・運営を継続実行した。

財団の財政収支面では、今年度も双日㈱から事業費及び管理費向に 500 万円の寄附があり、また退任評議員の方から 5 万円の寄附金を受領した。

基本財産の運用においては、依然として金利水準が低迷する中、平成 25 年度年間では 4,032 万円の運用収益を確保できた。

基本財産を形成している債券の価額は、前期末価額からの変動は僅かだったが、時価評価において 104 万円の増加があり、今期末の基本財産額は前期末比 117 万円強増加の合計 20 億 9,711 万円となった。

〔I〕 今期の事業の概要

a. 助成事業

今年度の助成事業は、平成 25 年度事業計画に定められていた当初の 41 案件に加えて、10 月から 12 月までの間に追加選考した 5 案件を加えた計 46 案件計 3,562 万円の助成を実施した。以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

イ) 学術研究助成

1. ライシャワーセンター/日米関係研究活動への助成

日本理解を促進し日米関係の健全な育成のために行うジョン・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院同センターの下記諸活動に対して助成。

- ① 日米関係年次報告書制作プロジェクト
- ② 日米とアジア間における外交、経済、エネルギー問題検討するプラットフォームプロジェクト
- ③ 日本人客員研究員招聘プロジェクト 他

2. ブルッキングス研究所/日本研究と政策提言への助成

米国最古・最大のシンクタンクであるこの研究所が行う日本からの研究者招聘プログラム、日本に関する研究会・セミナー等の開催、日本に関する研究及び研究書の出版に対して助成。

ロ) 奨学金助成

1. 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成

今年度5月～6月の補充選考を経て、前年度に続き、合計16名の以下の奨学生に対し奨学金を支給した。

①ベ ギョンジュ	(横浜国立大学 経営学部)
②デュアリング パスカル ジョン	(早稲田大学 文学部)
③チョウ ライ	(名古屋大学 文学部)
④ヒョン ナミ	(慶應義塾大学 文学部)
⑤イム ソンギョ	(上智大学 理工学部)
⑥ユン グックジン	(筑波大学大学院 生命環境学研究科)
⑦レ ヴ フン	(東京工業大学大学院 理工学研究科)
⑧オンケン インゲウァン ダディー	(名古屋大学大学院 国際開発研究科)
⑨ジョ ヨンミョン	(東北大学 医学部)
⑩ユン ソヨン	(一橋大学 社会学部)
⑪ハン サンイル	(九州大学 文学部)
⑫ハルタル アマルトゥブシン	(北海道大学大学院 医学研究科)
⑬カチリ ユセフ	(東京大学大学院 情報理工学系研究科)
⑭オウ ケンコウ	(一橋大学大学院 国際企業戦略研究科)
⑮リク ブンケツ	(京都大学大学院 薬学研究科)
⑯イ ソンファン	(大阪大学大学院 工学研究科)

2. 国際大学奨学金制度への助成

国際大学が、同大学に在籍する外国人私費留学生に支給する同大学の奨学金制度の中の **Sojitz Foundation Scholarship** に対して助成を行った。

ハ) 国際交流助成

(国際会議等)

1. 「第65回 日米学生会議」への助成

「共鳴から生まれる新たな可能性～個から社会、今日から未来～」をテーマに日本国内4地域を巡りながら討論する形で開催された。

開催時期： 2013年7月28日～8月20日

開催地： 日本（京都・長崎・岩手・東京）

参加人員： 日本側35名、 米国側36名 計71名

2. 「第32回 日中学生会議」への助成

「分かち合う多様性～心でつながる次なる“日中”へ～」をテーマに分科会（外交・経済・社会・歴史・情報・文化）討論・文化交流・フィールドワークを中心に、日本の東京、愛知、奈良、京都にて開催。

開催時期： 2013年8月12日～8月26日

開催地： 日本（東京・愛知・奈良・京都）

参加人員： 日本側 32 名、中国側 32 名 計 64 名

3. 「第 29 回 日韓学生フォーラム」への助成

「PASSION with ONE heart makes ONE powerful step」をスローガンに、日本で開催。地理、歴史教科書、東アジア経済（知的財産権と貿易摩擦）をテーマにしたシンポジウムや、社会、歴史、国際経済、文化、政治をテーマに発表、ディスカッションを行った。

開催時期： 2013 年 8 月 5 日～8 月 19 日

開催地： 日本（大阪・東京）

参加人員： 日本側 10 名、韓国側 14 名 計 24 名

4. 「第 25 回 日本ロシア学生会議」への助成

政治、経済、文化、社会問題の 4 つのテーマで、分科会での討議を中心に、社会見学、文化紹介などを通して交流した。

開催時期： 2013 年 8 月 6 日～8 月 19 日

開催地： ロシア（ハバロフスク・ウラジオストク）

参加人員： 日本側 11 名、ロシア側 22 名 計 33 名

5. 「第 26 期 日本ロシア学生交流企画」への助成

第 26 期日本ロシア学生交流会は、関東及び関西の 2 本部が、それぞれ訪日企画、訪日企画の計 4 つの企画を行い、宗教、著作権、北方領土をテーマにディスカッションを行いロシア側と交流した。

開催時期： (1)訪日企画 2013 年 8 月 15 日～8 月 27 日

(2)訪日企画 2013 年 8 月 1 日～8 月 12 日

開催地： ロシア（リャザン・モスクワ・ノヴォシビルスク）

日本（東京・大阪・京都）

参加人員： (1)関東本部 日本側 49 名、ロシア側 8 名 計 57 名

(2)関西本部 日本側 21 名、ロシア側 6 名 計 27 名

6. 「第 17 回 日本インド学生会議」への助成

文化、社会、経済、教育の諸問題についての分科会討論や企業・施設訪問を通じて交流。

開催時期： 2013 年 8 月 6 日～9 月 3 日

開催地： インド（デリー・コルカタ・チェンナイ・バンガロール）

参加人員： 日本側 10 名、インド側延べ 20 名 計 30 名

7. 「第 14 期 日本ケニア学生会議」への助成

「アフリカのグローバル化」「ビジネス・貿易関係」「IT」「教育制度、エネルギーと経済」についての分科会討論、施設訪問、ホームステイなどを通して、両国の学生が相互理解を深めた。

開催時期： 2013年8月12日～8月28日
開催地： 日本（大阪・広島・京都・東京・神奈川）
参加人員： 日本側10名、ケニア側5名 計15名

8. 「第59回国際学生会議」への助成

「ボーダレス社会と理解の壁ー世界市民として考えることー」をテーマに、分科会でのディスカッション、研修旅行、日本文化体験などを通して交流した。

開催時期： 2013年8月22日～8月25日
開催地： 日本（京都・大阪・神戸・岡山・九州）
参加人員： 8カ国から55名が参加（日本37名）

9. 「LEAF Forum 2013 中国セッション」への助成

日中韓の学生が組織する東アジア学生フォーラム。グローバル社会における東アジアの教育についてディスカッション・フィールドワーク・プレゼンテーションを行い、交流。

開催時期：2013年8月19日～8月25日
開催地： 中国（北京）
参加人員：日本側12名、中国側12名、韓国側12名 計36名

10. 「第11回 日本・イスラエル・パレスチナ学生会議」への助成

アイデンティティ、メディア、水問題、教育、分離壁、1国家案2国家案等をテーマに、3地域の学生が討論し、紛争解決の糸口を探りながら、互いの共通点、差異について共通認識を持った。

開催時期： 2013年8月10日～8月26日
開催地： 日本（東京）
参加人員： 日本人23名、イスラエル人6名、パレスチナ人2名 計31名

11. 「第7回 日本ベトナム学生会議」への助成

ジェンダー、育児、戦争、労働条件の4テーマについて分科会討論を行い、ホーチミン、ハノイ、フエでの文化交流会、企業訪問、ホームステイなどを通じて交流した。

開催時期： 2013年8月8日～8月21日
開催地： ベトナム（ホーチミン・ハノイ・フエ）
参加人員： 日本側19名、ベトナム側10名 計29名

12. 「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム2013国際本会議」への助成

日本、アフリカ、中近東、東欧など9ヶ国からの学生・教授、准教授50名が東京に集り、「理想のエリートをデザインせよ」をテーマに、国際的な関心事について学び、対話し、議論を行った。

開催時期： 2013年8月22日～8月29日
開催地： 日本（東京）

参加人員： 日本 26 名、チュニジア、インド、エジプト、キルギス、ブルガリア、
南アフリカ、ブラジル、スイスより 24 名 計 50 名

13. 「STeLA Leadership Forum 2013 in Netherland」への助成

次世代の国際的理工系リーダーを目指す日本・アメリカ・ヨーロッパ・中国の理工系
学生が一堂に会し、「100 億人のマネジメント：人口過多と都市化」をテーマに、リー
ダーシップの学習、分科会、グループプロジェクト等の合宿型フォーラムを行った。

開催時期： 2013 年 8 月 23 日～8 月 31 日

開催地： オランダ（デルフト）

参加人員： 日本 14 名、アメリカ 6 名、ヨーロッパ 13 名、中国 11 名 計 44 名

14. 「第 8 回日本台湾学生会議」への助成

教育・社会・国際・文化のテーマに分かれて、ディスカッションを行い、ディベートも
行った。

開催時期： 2013 年 8 月 16 日～8 月 21 日

開催地： 日本（秋田）

参加人員： 日本側 48 名、台湾側 47 名 計 95 名

15. 「第 19 回日本・トルコ学生会議」への助成

受験制度・英語教育・就職活動をテーマにディスカッションを行い、日本文化体験も行
った。

開催時期： 2013 年 8 月 1 日～8 月 7 日

開催地： 日本（東京）

参加人員： 日本 14 名、トルコ 6 名 計 20 名

16. 「トルクメニスタン学生日本研修プログラム」への助成

漢字の便利さ、日本とトルクメニスタンの建築・両国の社会、トルクメニスタン人の制
服・食事・結婚式をテーマに発表を行った。

開催時期： 2013 年 7 月 28 日～8 月 10 日

開催地： 日本（東京）

参加人員： 日本 9 名、トルクメニスタン 2 名 計 11 名

17. 「北東アジア学生ラウンドテーブル 2013」への助成

「北東アジアの抱える問題～国家としての解決策と若者の使命～」というテーマで 6
ヶ国の学生が、農業、文化、経済、教育、環境・エネルギーの分科会で討論した。

開催時期： 2013 年 8 月 5 日～8 月 11 日

開催地： 中国（北京）

参加人員： 中国 19 名、日本 22 名、韓国 14 名、モンゴル 7 名、台湾 4 名、
ロシア 2 名 計 68 名

18. 「日中相互訪問プロジェクト 2013」への助成

「大学で最も大切なこと」「日中報道比較」「大学における理想の語学教育」「日中習慣比較」「理想の情報収集法」のテーマで、ディスカッションし、発表した。

開催時期： 2013年8月14日～8月28日

開催地： 日本（福井県鯖江市）及び中国（北京）

参加人員： 日本16名、中国16名 計32名

19. 「第10回日本ルワンダ学生会議」への助成

学術・文化交流を通じて、日本とルワンダでの多角的理解を促進し、そこから両国の新たな可能性を模索した。「障がい者の貧困」や「少子高齢化」をテーマにディスカッションをした。

開催時期： 2013年12月18日～2014年1月5日

開催地： 日本（東京・神奈川・福島）

参加人員： 日本16名、ルワンダ4名 計20名

（国際交流）

20. 「第26回ジャパンテントー世界留学生交流いしかわ2013ー」への助成

日本で学ぶ世界からの留学生300人が石川県に集い、「ふるさと愛」をテーマに、若者達の夢と希望・日本の社会・文化・生活について意見を交換し合い、シンポジウム、ホームステイ等を通じた国際交流が行われた。

開催時期： 2013年8月22日～8月28日

開催地： 日本（石川県金沢市・小松市・輪島市、七尾市、能登町、加賀市 他19市町）

参加者： 留学生（70カ国・地域から）300名、地元の人々

21. 「2013年"コミュニケーションと平和一絆"日本語サミット」への助成

8カ国8名の日本語を学ぶ若者達選ばれ、日本で、同世代の日本人青少年を交え、「コミュニケーションと平和」をテーマにディスカッション、ホームステイ、伝統文化体験等を通じて、世界平和への思いを共有し、相互理解を深めた。

開催時期： 2013年8月21日～9月8日

開催地： 日本（東京・愛知・宮城）

22. 「"Mr.J" プロジェクトチーム 日本語夏季講習サマースクール」への助成

ウランバートルにある「新モンゴル高校」を舞台にして、日本の大学生が教師役となり、モンゴル高校卒業予定者を対象に、日本の詩や歌を含む日本語の授業、日本の社会生活の学習を行うサマースクールが開催された。

開催時期： 2013年7月29日～8月23日

開催地： モンゴル（ウランバートル）

参加人員： 日本からの派遣人員4名、現地運営メンバー4名、新モンゴル高校生31名

23. 「Sister City 日米高校交流事業」への助成

愛媛県松山市の新田高校及び松山商業高校の生徒 9 名が、同市と姉妹都市である米国サクラメント市を訪れ、同市のローズモント高校及びジョン・エフ・ケネディー高校、同市役所及びカリフォルニア州議事堂他で、現地の高校生や一般市民に対し、日本の書道を披露し、日本文化紹介と交流を行った。

開催時期：2013年9月19日～9月23日

開催地： 米国（サクラメント）

参加人員：ローズモント高校及びジョン・エフ・ケネディー高校生徒及び一般市民
約 100 名

24. 「互いのことばを学ぶ日韓 中高校生交流プログラム 2013」への助成

ソウル大学の宿舎で共同生活を送りながら K-POP ダンスの創作活動、買い物体験を通じてお互い相手の言葉を学びつつ交流した。

開催時期：2013年12月26日～12月30日

開催地： 韓国（ソウル市）

参加人員：日本 15 名、韓国 15 名 計 30 名

25. 「2013 年度日中青年会議」への助成

歴史、外交、文化に関するトピックについて話し合い、異文化理解や相互理解・尊重を深めた。

開催時期： 2013 年 8 月 3 日～8 月 9 日

開催地： 中国（香港）

参加人員： 日本 15 名、中国 20 名、オーガナイザー33名 計 68 名

26. 「CEPEX Japan Studies Award」への助成

米国の NPO 法人 CEPEX が、ジョージメイソン大学と共同で行うアメリカ人日本専門家育成プログラム「Japan Studies Award」。このコンテストの優勝者には、ワシントン DC の日本企業での 2 週間のインターンシップの経験及び 10 日間の日本訪問の機会が与えられた。

開催時期： 2013 年 5 月、6 月

開催地： 米国（ワシントン）、日本（東京）

27. 奨学生交流会

財団の奨学生同志及び財団役職員との交流・親睦の為、並びに奨学生ネットワーク作りを目指し、毎年開く奨学生交流会。初日は、奨学生、財団役職員及び双日(株)の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会、2～3 日目は箱根方面への研修旅行というプログラムで開催された。この交流会を通じ、奨学生同志の親睦が一層深まった。

開催時期： 2013 年 9 月 19 日～21 日

参加者： 奨学生・奨学生 OB 19名、 役員他関係者 35名 計 54名

28. 「ウォールアートフェスティバル 2014」への助成

学校の校舎の壁をキャンバスにして、日本とインドのアーティストが 10～20 日間の滞在制作を行い、地元の子どもたちにアートの力を伝え、学校の楽しさを伝えて交流し、その模様をメディアを通じて内外に伝え、地域の活性化を目指すプロジェクト。今年度は、インド・マハラート州ダハヌ・ガンシャード村で開催された。

実施時期： 2013年2月15日～2月17日

開催地： インド（マハラート州）

参加人員： アーティスト7名、日本ボランティア45名、インドボランティア40名、
入場者約4300名

29. 「Bizjapan Summit 2013」への助成

シンガポール、中国、アメリカ、フィリピン、韓国、スペイン、アゼルバイジャン等からの学生を日本に招聘し、日本側学生とミックスチームを作り、日本の POP Culture 関連起業を念頭にしたビジネスプランコンテストを行うことで、日本社会についての理解促進と国際交流が行われた。

開催時期： 2013年12月8日～12月16日

開催地： 日本（東京）

参加者： 日本側7大学から36名、海外側18ヶ国・地域から29名 計65名

30. 「MPJ ユース 2013 年度アフリカ研修事業」への助成

ウガンダの関係政府機関を訪問した後、「日本とアフリカの互惠的関係の構築」をテーマとして、メディア・テクノロジー・ビジネス・ユースエンパワメントの4分科会でディスカッションをした。

開催時期： 2014年2月24日～3月11日

開催地： ウガンダ（カンパラ他）

参加人員： 日本12名、ウガンダ5名、タンザニア3名、ルワンダ4名 計24名

（日本文化紹介等）

31. 「第38回 ジャパンウィーク 2013年 ポーランド・ポズナン」への助成

日本から参加する多くの団体による、日本の伝統芸能、伝統工芸、美術、音楽、スポーツ等幅広いジャンルの日本文化紹介を通じて、日本に対する理解を深めると同時に、地元市民との交流を図る企画。今年度はポーランド・ポズナンで開催された。

開催時期： 2013年10月19日～10月24日

開催地： ポーランド（ポズナン）

参加者： 日本側52団体861名、ポーランド側11団体93名、見学者21,600人

32. 「マジック公演と折り紙講習会（トルコ・グルジア）」への助成
NPO 法人オアシスが、今年度はイスタンブール日本人学校等及び在グルジア・クタイシの SOS 子供村を訪れ、マジックと折り紙の公演を通じて、子供達を中心とした地元の人々と交流した。
開催時期： 2013 年 5 月 5 日～5 月 20 日
開催地： トルコ（イスタンブール）、グルジア（クタイシ・トビリシ）
参加人員： （公演 9 回）延べ観客数 計 440 人
33. 「米澤浩・熊沢栄利子欧州公演（邦楽演奏会）」への助成
尺八と箏による邦楽演奏会。在外公館より要請があった。
開催時期： 2013 年 5 月 1 日～6 月 7 日
開催地： ドイツ（ベルリン・ケルン・ミュンヘン）、オーストリア（ウィーン）、スロバキア、リトアニア、ルクセンブルグ
参加人員： 公演 14 回 延べ観客数計 1699 名
34. 「江戸糸あやつり人形ドイツ公演 2013」への助成
約 350 年の歴史をもつ糸あやつり人形の公演を通して、日本文化の紹介と日本への理解を深めた。
開催時期： 2013 年 5 月 30 日～6 月 3 日
開催地： ドイツ（ブラウンシュバイク）
参加人員： ドイツ人観客 110 名
- (日本語普及事業等)
35. 中国・對外經濟貿易大学に対する日本語教材（辞書）の寄贈
日本語普及事業として、北京の對外經濟貿易大学の日本語学科の学生 20 名に対し、日本語の辞書を中心とした日本語学習用図書を寄贈した。
実施時期： 2013 年 12 月 26 日
36. 中国・華東師範大学日本語学科への日本語辞典の寄贈
日本語普及事業として、上海の華東師範大学の日本語学科への新入学生 48 名に対し、日本語の辞書を中心とした図書を寄贈した。
実施時期： 2013 年 10 月 24 日
37. ベトナム・ダナン外国語大学向け日本語教育用教材の寄贈
ベトナム・ダナン外国語大学に対し、日本語教育専門の書籍 73 冊を寄贈した。
実施時期： 2013 年 5 月
38. 「第 19 回（2013 年）ホーチミン市日本語スピーチコンテスト」への助成
第一次審査で 24 名を選び、スピーチと質疑応答による第二次審査で本選出場者を 12

名選出し、5名を表彰した。

開催時期： 2013年5月13日

開催地： ベトナム（ホーチミン）

参加人員： 本選出場者12名、来場者数914名

39. ベトナム・フエ大学への日本語教育用教材・機材の寄贈

ベトナム中部のフエ大学日本語文化学科に対し、その日本語教育授業で使用する教育専門図書及び日本語教育用パソコンを寄贈した。対象学生 500名。

実施時期： 2013年12月

40. 「オーストラリア・スカイ小学校日本語授業応援パワーアッププロジェクト」への助成

和歌山大学附属小学校は、オーストラリア・ビクトリア州のスカイ小学校とインターネット・スカイプを使っての児童による絵本の読み聞かせなど日本語授業の応援プロジェクトを行った。又、附属小教諭が現地を訪れ、読み聞かせ等の特設授業を行った。

実施時期： 2013年8月3日～8月12日

参加人員： 日本側 小学校児童26名

オーストラリア側 小学校児童230名

41. 「民話・伝説の朗読会－日本語によるリトアニアと日本の民話・伝説の朗読」への助成

日本語を学ぶリトアニア人を対象に、日本語でリトアニアと日本の民話・伝説を朗読することにより、日本語の普及と日本理解促進の一助とする。

実施時期： 2013年10月18日

開催地： リトアニア（ユウナス）

参加人数： 朗読参加14名、観客数 約30名

42. 「インドネシア語版・日本民話絵本の寄贈を通じた日本文化理解の促進」への助成

「花咲じいさん」のインドネシア語の絵本を作成し、小学校へ配布した。日本文化の紹介に貢献した。インドネシアでも絵本を作る機運が高まった。

開催時期： 2013年11月1日～2014年3月31日

開催地： インドネシア（バリ）

1000部印刷

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の2事業を行った。

1. 財団ホームページの更新・運営

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第10号」の発行

平成25年9月「財団だより - 第10号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財

団関係者、母体会社の双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、平成 24 年度の事業報告及び財団の活動の PR を行った。

〔Ⅱ〕 管理・庶務事項

- 平成 25 年 4 月 1 日 平成 25 年度奨学生募集を開始
- 4 月 13 日 第 75 回理事会を「決議の省略」の方法で開催
・ 4 月 25 日の臨時評議員会開催を決議
- 4 月 26 日 第 61 回評議員会を「決議の省略」の方法で開催
・ 今泉泰彦氏及び中原茂明氏を評議員に選任
- 5 月 7 日～8 日 会計監査人による決算監査
- 6 月 4 日 第 76 回理事会を「決議の省略」の方法で開催
・ 平成 24 年度事業報告書及び決算報告書を承認
・ 「会計基準」の一部を変更
・ 6 月 12 日の定時評議員会開催を決議
- 6 月 7 日 第 80 回選考委員会を紙上開催
・ 平成 25 年度奨学生 8 名を補充選考
- 6 月 12 日 第 62 回評議員会を開催
・ 2 名の新任を含む理事 9 名及び 1 名の新任を含む監事 2 名を選任
・ 平成 24 年度の事業報告並びに決算報告を了承
- 6 月 12 日 第 77 回理事会を開催
・ 加瀬豊理事を理事長に重任、濱塚純一理事を専務理事に選出
・ 理事長・専務理事の職務執行状況の報告
- 6 月 27 日 平成 24 年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出
- 7 月 25 日 第 78 回理事会を「決議の省略」の方法で開催
・ 評議員補充選任の為、8 月 2 日の臨時評議員会の開催を決議
・ 選考委員会規程を制定
・ 選考委員 5 名を重任
- 8 月 2 日 小松國男評議員が辞任
- 8 月 2 日 第 63 回評議員会を「決議の省略」の方法で開催
・ 小松國男評議員の後任として藤島安之評議員を選任
- 8 月 20 日 小松國男選考委員、堀啓二郎選考委員が辞任
- 8 月 20 日 第 79 回理事会を「決議の省略」の方法で開催
・ 辞任する小松國男選考委員並びに堀啓二郎選考委員の後任として安武史郎選考委員並びに濱塚純一選考委員を選任
・ 特定資産「公益事業実施準備基金」1500 万円の内 200 万円を取崩すことを決議
- 9 月 13 日 機関誌「財団だより 第 10 号」を発行

- 9月20日～22日 「財団奨学生交流会」を開催
- 10月8日 第81回選考委員会を（紙上）開催
- ・ 選考委員長に安武史郎委員を選出
 - ・ 追加助成案件2件を選考
- 10月21日 第82回選考委員会を紙上開催
- ・ 追加助成案件2件を選考
- 11月1日 平成26年度国際交流助成募集開始
- 12月17日 第83回選考委員会を（紙上）開催
- ・ 追加助成案件1件を選考
- 12月31日 西村英俊評議員が逝去、辞任
- 12月31日 平成26年度国際交流助成募集〆切
- 平成26年2月20日 第84回選考委員会を開催
- ・ 平成26年度助成案件を選考
- 3月11日 第80回理事会を開催
- ・ 平成26年度助成案件(案)及び平成26年度事業計画(案)を承認
 - ・ 平成26年度収支予算(案)を承認
 - ・ 現選考委員5名を平成26年4月1日～平成28年3月31日の任期で重任選任
 - ・ 理事長・専務理事の職務執行状況の報告
- 3月25日 平成26年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出

以 上